

「問い、経験し、考察する学びの輪!探究学習!!」

「探究応用」の一環として、夏季休業中も様々な場所に出向き、オンラインでも専門家とつながりながら、体験やインタビューを重ねました。その中から、二つの班の取り組みを紹介します。一つ目は、「在宅療養班」です。

「介護殺人・虐待事件はなぜ起こるのか」を問いに市役所の高齢介護課包括支援担当、小田北地域包括支援センターのケアマネジャー、兵庫医科大学看護学部の研究者へのインタビューを行いました。また、認知症家族の会にて会合に参加し、介護を担うご家族からお話を伺いました。さらに、「健康長寿の会」とのコラボイベントにも参加して、地域の高齢者と交流しました。調査を進める中で、生徒達は、介護殺人や虐待を介護者の問題として捉えるだけでは十分ではないことに気づき始めました。介護者の孤立や負担、困ったときに相談できる人がいるのか、地域や専門職とつながることができているのかなど、個人を取り巻く社会的環境や構造にも目を向ける必要があるのではないか、と考えるようになっていきます。

二つ目は、防災・減災班の「心の防災」です。「被災後、人はどのようにして立ち上がっていくのか」を問いに、探究しています。防災ジュニアリーダーの活動では3名が東北の被災地を訪れ、さらに1名が自費で福島を訪問し、被災された方々からお話を伺いました。また『被災者・支援者のための災害時こころのケア実践ガイドー101の疑問とその解説』（医学書院、2026年5月）を読み、災害後の心のケアについて学びました。8月には小学2年生の時に神戸市東灘区で阪神・淡路大震災を経験し、お母さんと3人兄弟の末弟（当時1歳）を亡くされた方からお話を伺いました。その方は震災後を振り返り、「家族や親戚、友達といった、自分の周りにいる人のありがたさ。そして、日常のありがたさを身をもって知った」と語っておられました。また自らの震災体験を語ることにについて「語ることで頭と心が整理され、前を向くことができたように思う」と振り返っています。こうした学びから生徒達には被災から立ち上がっていく過程には、本人自身の力だけでなく、家族や友人、周囲の人々とのつながり、そして自分の経験を誰かに語り、それを受け止めてもらうことが関係しているのではないか、ということが見えてきました。

一見すると、「介護殺人・虐待」と「被災後の心の復興」は、まったく異なるテーマのように見えます。しかし、二つの班がそれぞれ現場に出て、人に出会い、その声に耳を傾けながら探究する中で、思いがけない共通点が浮かび上がってきました。それが、「人と人とのつながり」です。介護では介護者が孤立し、悩みや負担を一人で抱え込むことが、深刻な事態につながる場合があります。一方、災害後の生活では、家族や友人、地域の人々とのつながりが、再び日常を取り戻し、前を向いて生きていくための支えとなります。つまり、「一方では、「つながりを失うこと」が人を追い詰め、もう一方では、「つながりがあること」が人を支える。」全く異なる入口から始まった二つの探究が、「人は一人だけでは生きていけない」「人を支えるために人と人とのつながりはどのような意味を持つのか」という共通する問題へと近づいてきたのです。

人と人とのつながりが希薄になっているといわれる地域社会の中で、私達に何ができるのでしょうか。

そして、医療・看護・福祉の専門職を目指しているからこそ、できることは何なのでしょう。ここからが2学期の探究です。私達教師が次の問いを与えるのではなく、これまで出会った人々の言葉や自分の体験をもう一度振り返り、そこから生徒自身が新たな「問い」を見つけて欲しいと思っています。そして、問いを「調べる」だけで終わらせず、地域の中で自分達に何ができるのかを考え、小さくても実際の行動へとつなげて欲しいと思っています。

二つの探究から浮かび上がった「人と人とのつながり」。そこから生徒達はどのような問いを見つけるのでしょうか。高校生が拓く知見から、私たち教員が学ぶことばかりです。2学期の探究が、今から楽しみです。乞うご期待!!